


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成26年 5月18日

山北町議会議長 池谷 莊次郎 殿

受付番号	第 2号	質問議員	3番	渡 辺 良 孝 
件 名	1.三保地域の活性化に向けて 2.山北～山中湖線の林道復旧を			
要 旨				
<p>1. 三保地域の活性化に向けて</p> <p>三保ダム丹沢湖の建設による地域づくりは、「三保地域振興整備計画」(昭和52年7月)が基になり進められてきた。この計画は、神奈川県が将来の三保地域の望ましい姿を設定し、その実現に努力する主旨にそって、町及び地域住民の参加を得て策定されたものである。</p> <p>特に、地域づくり構想では、「ダム建設にあわせて整備を進めている湖周辺の県道・林道は、ともに総延長約10Kとなり6橋で結ばれる。これら道路を幹線として各地域の特性を生かし、自然と充分調和を図りながら湖周辺の公共施設・観光資源の整備及び地域産業の振興をそれぞれ有機的な関連を考えて進めることにより、目的の実現をめざすものである。」と記述されている。そこで質問をします。</p> <p>1) 三保ダム完成から36年が経過した。ダム建設当時からみて予想できない少子高齢化による過疎化、そして玄倉川災害など、計画的な地域振興がはかれなかったことは現実として受け止めざるを得ないと思う。しかし、神奈川県が昭和52年7月に策定した「三保地域振興整備計画」の基本構想の理念は、継承されるべきと思うが町の考えはどうか。</p> <p>2) 現在、丹沢湖周辺からハイツ&ヴィラ中川跡地を始め、玄倉方面の県・町の公共施設の利活用が大きな課題となっている。今後、丹沢湖周辺の県有施設などの有効的な活用については、この基本構想を基に見直しをする観点で、県と要望・協議を行っていくべきではないか。</p> <p>3) 町商工会のモニタリングツアーを機に、企業庁を始め関係機関のご理解により「三保ダム花の植栽推進協議会」の組織で、三保ダムの堤</p>				

体の8,000㎡にコスモスの種をまいた。ダム堤体への花の植栽は長年の懸案であったと思う。このことにより「ダム湖百選」の三保ダムに、まさに花を添えることになった。また、ダム下流広場から神尾田神社までのトリムコースが、ダム建設時に、野外レクリエーション施設として設置されたが、ほとんど知られていない。この施設を活かし、ダム堤体の花を楽しみながら、新たな健康づくりのスポットとして、県が推進する「未病を治す」施策に繋がらないか。

- 4) 私は、24年12月議会で、県道山北藤野線の中川～箒沢までの拡幅について質問をした。この部分は「以前から地域要望に出ていることから、整備促進を町の計画に位置付け、県に強く要望する。」との回答であった。しかし、毎年県へ要望はしてきたと思うが最近の確認で、県の道路計画から外れてしまっている。このルートは山北藤野線の一番の難所個所である。自治会要望の域を超え、西丹沢の災害対策からも、県の道路計画に入れ、早い改修を強く要望していくべきあると思うがどうか。

2. 山北～山中湖線の林道復旧を

山北～山中湖線は、山中湖へ抜ける道として、以前から開発が期待されてきた。平成22年の台風9号と翌年の15号により林道が崩落し、今では途中から人の通行ができない状況である。この林道は、世附峠から小山町へ、そして、三国峠を越えて山中湖へつながり、地域振興や観光面でも期待されるルートでもある。又、身近な観光面では不老山を始め、夕滝・大瀬の滝などへのハイキングコースとしてもいくつもの名所がある。

かねて議会で不老山に自生している日本固有種である「サンショウバラ」の保護についての一般質問に「町の財産であり整備を考えている。」との答弁があった。ここで富士山世界文化遺産への登録により、今まで以上に山中湖方面へのルートが注目され、観光資源が生きてくると思う。国有林の多くの面積を抱えている当町であり、これから国や県等、関係機関へ積極的に林道の復旧を要望し、世附川沿いから上流にかけての閉塞感をなくして行くことが、三保地域振興、更に町の観光振興に繋がってくると思い質問をします。